

# 「小地域懇談会」

～富桑地区同推協と大和地区人推協の取り組み～

問い合わせ先 本庁舎人権推進課 ☎0857-20-3143



「ふるさとを思い 志をもつ子」を中学校区で育むために

## 子どもの育ちは

## 地域の誇り



本市の小・中学校は、9年間で子どもを育てるという「小中一貫教育」の視点に立ち、魅力ある学校づくりに取り組んでいます。また、家庭や地域とのつながりをいっそう強め、中学校区の特徴ある教育を目指します。

第二庁舎学校教育課 ☎0857-20-3088

いま教育現場では 地域の大人が学校の支え

本市では、小・中学校のつながりを大切にされた教育活動を行っています。小・中学校の教員が一緒になって子どもの指導を考えたり、小・中学生の合同学習を実施したりして、子どもたちの学習意欲を高め、思いやりの心を育てています。

また、子どもたちが中学校生活をスムーズにスタートできるよう、中学校の教員が定期的に小学校にも勤務し、児童の様子を見て中学校での支援方法を考えたり、小学校の保護者の相談に応じたりする取り組みも始めました。

本市は、子どもの学習習慣の定着や規範意識の育成などを目指し、学校・家庭・地域が一体となった教育に力を入れています。小・中学校がつながりを強める中で、小・中学校合同参観日や地域フォーラムなど、各中学校区で特色ある取り組みが進んでいます。

登下校の安全指導や学習・体験活動への協力など、地域の大人一人ひとりの力が学校教育の支えとなります。子どもたちの成長を地域のみならず喜び合えるよう、今後も中学校区が一体となった教育活動を進めていきます。

富桑地区まちづくり協議会では、東日本大震災を教訓にして、「人権が尊重される安心・安全のまちづくり」というテーマで、地区の防災マップづくりに着手しました。同推協では、災害時における人権に視点を置いた「クロスロードゲーム」を活用し、参加型学習を行いました。



富桑地区の座談会

過去に発生した災害で実際に起こった人権侵害事例を調べ、改良を加

富桑地区同推協 会長 福田 睦史  
大震災では、残念ながら多くの人権が損なわれるという事実がありました。

富桑地区同推協 会長 田中 くに枝  
平成24年度は、全7集落が「災害と人権」避難所での不安を日常の安心へつなげよう」というテーマで座談会を行いました。ねらいを明確化し、意見を出しやすくする工夫について、集落の担当者や交えて事前研修し、会の進め方や使用する写真の選定など、具体的事項を確認しました。

【実施内容】  
・ねらいの説明・ビデオの一部視聴・5枚のイラストや写真を見ながらのグループ討議・発表・市人権教育推進員の助言・情報提供(計90分)

市内52カ所に組織されている地区同和教育推進協議会などの主な取り組みに、「小地域懇談会」があります。懇談会は、「人権を尊重した差別のない明るいまちづくり」の推進を目的に、各町区で地域の住民を対象に開催されています。

平成24年度は、東日本大震災の影響を受けて、災害時に起こり得るさまざまな人権問題について考えた地区がありました。今回は、その中から2地区の取り組みを紹介いたします。

えた「災害と人権クロスロードゲーム」第2弾を作成し、DVD「防災教育から生まれた釜石の奇跡」片田教授に聞く」の視聴とともに、全町内会で行いました。

このゲームは、災害発生直後、避難所での対応を想定した事例に対し、「Y(イエス)」「N(ノー)」の2種類のカードで自分の意思を表明し、少数意見を大事にしながら、その考えに至った理由を話し合う、という形式で進行します。こうした取り組みを行ったのは、非日常の中の究極の選択について討論することを通して、それぞれの町内に居住する高齢者・障がいのある人・幼い子どもたちの人権に、日常から配慮する機会になると考えたからです。事実そ

グループ討議では、避難誘導、車中や体育館での避難生活などの場面を中心に、どんな時どんな人が困るか、普段から考えなければいけない点などについて自由に意見交換しました。「聴覚障がい者は音声情報のみでは困る」「災害時に自宅にいるとは限らない」「日本語が話せない人もいる」など、どの集落でも多様な気づきが出されました。

### 湖東中学校区



地域の運動会で中学生が運営役員に

### 鹿野中学校区



園児、小・中学生が交流活動

### 北中学校区



中学校教員が校区内の小学校で授業を実施

### 河原中学校区



地域フォーラムで小・中学生がシンポジストとして意見を発表